

「一発で政権交代」に熱い拍手

奈良・小池書記局長、京都・市田副委員長が訴え

近畿比例4議席回復必ず

10、11日の土・日曜日、小池書記局長、市田忠義副委員長、こくた恵二国対委員長、大門実紀史参院議員が近畿各地の街頭演説で「次の総選挙で政権交代・野党連合政権を」と訴え、熱い拍手に包まれました。



●奈良 10日、近鉄奈良駅前の街頭演説では小池書記局長の訴えに450人が聞き入りました(写真)。小池氏は冒頭、「次の総選挙で自公政治を終わらせ、野党連合政権をつくろう。市民と野党共闘に力をつくす日本共産党の躍進を。比例近畿ブロックでは4議席の回復を」と呼びかけました。

学術会議への政治介入、「自助努力」を押し付ける菅首相を批判したうえで、今の政治の対決軸が「破たんした新自由主義の暴走か、大本からの転換か」にあると指摘。コロナ対策に触れて「GoTo トラベルよりGoTo PCR検査」「5.5兆円の軍事費を削りコロナ対策を」と語り、コロナを乗り越えた新しい社会について「7つの提案」を詳しく語りました。こむら潤・近畿比例候補は「憲法通りの『誰もが自分らしく社会』を一緒に」と訴え、小選挙区の谷川かずひろ1区候補、宮本次郎2区候補もあいさつしました。



●京都 11日、市田副委員長は京都府北部の宮津市、福知山市で訴え、それぞれ140人、150人が参加しました。市田氏は「菅内閣の支持率が高いが、支持理由で一番多いのが『代わりがないから』で、野党の本気度が国民に伝わっていない」と指摘。「次の総選挙で政権交代の野党の決意を示す」ことの重要性を訴えました。

学術会議への介入問題で「学問の自由」をうたった憲法を持っている国は多くないことを挙げ、「日本国憲法にあるのは戦前、学問の自由が奪われたからだ」とし、任命拒否を撤回させるまで頑張ろうと訴えました。そして「菅強権政権を退場させるのは野党の責任。共産党はそのために頑張る」と決意をのべました。山内健京都5区候補があいさつしました。

●こくた衆院議員は11日、滋賀県大津市石山で、大門参院議員は10日、兵庫県西宮市で、11日、和歌山県の和歌山市、田辺市、上富田町、白浜町で訴えました。清水ただし衆院議員、宮本だけし前衆院議員は大阪住民投票で奮闘しました。

20近畿ブロック事務所ニュース

Tel06(6975)9111 Fax06(6975)9115

【府県・地区・地方議員御中・部内資料】

No. 53(202010.12)

大阪市廃止に再びNOを 住民投票告示

勝利へ支援を

2度目となる大阪市住民投票が12日、告示されました(11月1日投票)。大阪市の自治と民主主義を守り、安倍政治の最悪の補完勢力として自己責任・新自由主義を押し付けてきた、維新の野望を打ち砕く、全国・全近畿的意義を持つたかいです。

告示日には、「明るい民主大阪府政をつくる会」「大阪市をよくする会」が大阪市役所前で街頭宣伝(写真)。「都構想は百害あって一利なし。孫子の代まで害が及ぶ。逆戻りできない都構想には、迷っている人も反対を」と訴えました。

党大阪府委員会は同日アピールを発表。反対の声と運動は日増しに広がり、相手は守勢、最後まで緊迫した状況が続く下、構成員が総決起して必ず勝利をと呼びかけています。

